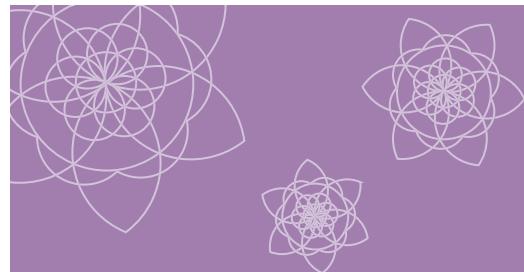


Living the Lotus

2
2022

VOL. 197

Buddhism in Everyday Life



立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家佛教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鑑会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus
2022年2月号 (Vol. 197)

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F
Tel: 03-5341-1124
Fax: 03-5341-1224
E-mail: living.the.lotus.rk-international
@kosei-kai.or.jp
編集責任者: 赤川恵一
編集チーフ: ジグジドホロル・ゲレルトヤー
校閲者: 小坂和正、菊池克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ



開祖隨感

きょうりき ちょうだい 経力を頂戴する

今年も寒中読誦修行が始まりました。まだ夜も明けきらぬ早朝、寒さを吹き飛ばして道場へかけつけ、腹の底から声を出して真剣に經典の読経をすると、内から力がみなぎってきます。

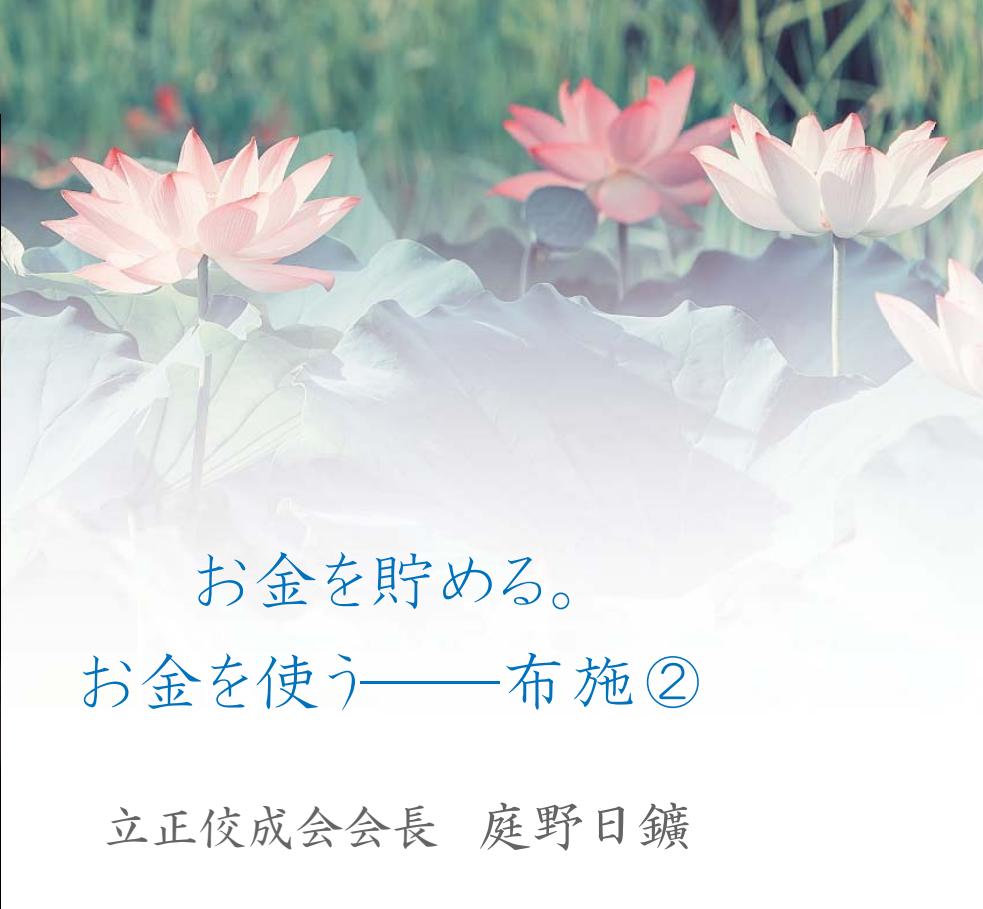
私たちが読誦するその法華経の經典の一文字一文字に、仏さまの願いが宿っています。また、これまで数えきれない人たちによつて読誦されてきたその祈りが、お経にはこもっています。その仏さまの願いと一つになり、人びとの祈りと一つになったときに、法華経の経力を頂戴することができるのです。

仏さまのご守護とは、摩訶不思議な力で私たちの願いをかなえてくださることではありません。私たちがどんな困難にぶつかろうと、仏さまはいつも私たちについていてくださって、「私が見守ってあげているから、大丈夫なのですよ」「あなたは、そこを乗り越えることができる力を具えているのですよ」と後押ししてください、私たちの力を、ありったけ引きだしてくださるのです。それが仏さまのご守護です。

その仏さまのお見守りを信じて、全力を尽くすことこそ大切です。

(『開祖隨感』10, P. 212-213)

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



お金を貯める。 お金を使う——布施②

立正佼成会会长 庭野日鑛

布施は慈悲心のあらわれ

涅槃会(ねはんえ)（二月十五日）を迎えるこの時期になると、釈尊のしゃくそんご遺徳を偲んで、多くの人が新たな学びをなさることと思います。そのような意味であらためて仏伝をひもとくと、弟子たちに自らの入滅を予告されたときの釈尊のお言葉が胸に迫ります。「多くの人のりやく利益のために、多くの人びとの幸福のために、世間の人びとをあわせんめん憐れむために」教えを実践し、法を伝えなさいと弟子に託す言葉をもって、釈尊はただただ人びとの幸せを願われているのです。

成道以後の布教伝道は、ひたすら利他に生きる釈尊の布施の実践にはかなりません。釈尊は、その布施をとおして慈悲に徹せられたということです。このことはまた、思いやりや慈しみの心を社会生活のなかで生かそうとするとき、それは布施（法施・財施・身施）という実際の行為によってこそ具体化されるということを教えてています。布施とは、慈悲の実践そのものにはかならないのです。

ただ、世間で布施といえば寺社や教団にお金を寄進することとの印象も強く、その財施や財についての考え方も、本来の意味とは異なる誤解があるような気がします。

蓄財も仏行？

仏教における財について、仏教学者の中村元先生は「一般在俗信者に対しては、むしろ積極的に現世的な財を尊重すべきと説かれている」「財の集積は、人生の望ましい目的の一つと考えられている」と述べています。禁欲的に思われるがちな仏教の世界においても、利益を追求したり、財を蓄えたりすることは慎むべき行為ではなく、むし

ろ生きがいにもつながる積極的な生き方として評価されるというのです。それはなぜか
というと、「蓄えた財によって、人びとに福利をわかつち与えることをめざす」からです。

お金は、使う人の心一つで生きもすれば死にもするといわれ、悪用されたりもします
から、どのように使うかが大事ですが、仏教では「財を得ては多くの人びとのために恵
む人」が称賛されて、もの惜しみの心を捨ててわかつちあうことの大切さが強調されてい
るのです。どれほど富を得て、財を蓄えても、その財を「自分ひとりが持っていたので
は死んでしまう。それを『布き施す』ことで財が生きる、それが「布施」本来の意味だと
中村先生はいいます。

金銭にまつわる「経済」という言葉も、もとは中国の古典にある「経世済民」(世を経
たみ すく
め民を済う)に由来しますから、経済の基本は蓄えた財を貧しい人や苦しむ人とわかつ
ちあうところにあるのかもしれません。もちろん、蓄える財が法律に則った正しい働きによ
るのは当然のことです。

さて、いま気候変動による地球環境の危機や食料問題、貧富の格差など、世界中
あらゆる命が脅かされる現実があるなか、人間の活動を見直す生き方が求められて
います。

海外の高名な経済学者は、これから世界秩序や人類の未来を考えるとき、鍵となる
のは「利他主義」だといいます。多くの人の心に、他者とわかつちあう利他の精神が根
づく必要性を示し、国も企業も利他的に連携して明るい未来を築こうというのです。こ
の考えが、私には「すべてのものは根源的に一体であるという『自他一如』の教えを自
覚し、布施の心でわかつちあおう」と促す仏の声と重なります。

その意味でも、私たちにとって布施は大切な精進の一つといえます。仏の教えをお
伝えする法施はもちろん、つらさや悲しみのただなかにいる人の心情を気遣い、安ら
ぎを与える身と心による慈悲の実践も私たち菩薩の基本です。

ただ、財の布施については、それをお預かりする教団が何をなすのかなど、きちんと
考察する必要があります。真に生かされ、自他ともに功德を得る財施とは何か——。

みなさんは、どのように受けとめておられるでしょうか。

(『校成』2022年2月号)

Spiritual Journey

私の人生を変えた三つのご縁

国際伝道部スタッフ
萩原 陵介

この体験説法は、2022年1月6日に行なわれた「トランス・アトランティック・サンガ（北南米欧州合同オンラインプログラム）」で発表されたものです。

皆さまおはようございます。そして明けましておめでとうございます。国際伝道グループの萩原陵介と申します。いつも皆さんに大変お世話になっております。私は2019年12月、国際伝道グループに配属となり、昨年11月まで北米・南米・欧州の拠点担当をさせて頂いておりました。現在は、モンゴルとロシアのサハリンの拠点担当をさせて頂いております。国際伝道グループの前は学林で修行させて頂いておりました。昨年5月の研修プログラムに引き続き、今日もこのように研修に参加する機会を頂き、感謝の思いでいっぱいです。

開祖さまは生前、「法華経とは出遇いのこと。出遇いを大切にしなさい」という教えとお話しされています。私たちは様々な事柄や経験、人々等に囲まれています。仏教ではそのような私たちの周りにある様々な事柄を「ご縁」と呼びます。開祖さまはこのお言葉を通して、「ご縁との出会い」を大切にするよう私たちに教えてくださっているのだと思います。今日は体験説法をさせて頂く中で、特に私が人生で出遇った三つの大きな「ご縁」について、そしてそのご縁から頂いた功德や学びについてお話しさせて頂きたいと思います。そして最後に、ご縁との出遇いの中で私が大切だと気づいたことについてお話しさせて頂きます。人生経験に乏しい私ですが、このような自らの信仰体験をお話しする機会を頂き、深く感謝申し上げます。よろしくお願ひいたします。

最初のご縁は「心の病」です。私は信仰一家に生まれました。父は佼成会のスタッフをしており、現在は東京の練馬教会でお役を頂いております。八年前まで、

国際伝道グループの次長のお役を頂いておりましたので、きっと多くの方が父のことをご存知かと思います。母は埼玉県の浦和教会で支部長のお役を頂いており、祖母も教会で重要なお役をしておりました。しかし、私自身は大学生になるまで信仰に興味を持っていませんでした。日本人の中には新宗教に対して批判的な人も多いため、信仰することに恥ずかしさすら感じておりました。もちろん教会にも足を運ぶことはほとんどありませんでした。



オンラインで説法する萩原さん

私が初めて本格的に佼成会の活動をさせて頂いたのは、大学在学中に経験したイタリアのローマにあるバチカン記者室でのインターンシップでした。そこには佼成新聞の支局があり、現在も宮平宏さんという方が支局長として駐在されています。実は大学二年生の夏、ローマに旅行したとき宮平さんと出会い、「バチカンと一緒に働いてみないか?」と誘って頂いておりました。イタリア語も記者の仕事も分からなかったので不安でしたが、立正佼成会ローマセンターの水藻克年センター長さんに相談すると、「出来るか出来ないかではなくて、やりたいかやりたくないかで決めなさい」とアドバイスを頂き、挑戦してみることにしました。

しかし、インターンシップに向けて準備をしているさなかに、私は強迫性障害という精神的な病気になってしまったのです。大学生活に馴染めなかったこともあり、ストレスが溜まって、知らない間にこの病気になっていたようです。病気のせいで手を過剰に洗ったり、確認行為が増えたり、気分の浮き沈みを感じることが多くなりました。誰かに監視されているという妄想から、「自分が何か間違いを起こしたらとんでもないことが起きるのではないか」という不安感や恐怖感にいつも襲われていました。

インターンシップはビザの関係で二回に分けて実施されました。一回目は病気に苦しみながらのインターンシップでした。毎晩、水藻センター長さんと奥さまの佑佳さんに話を聞いて頂き、不安を取り除いておりました。しかしすぐに次の不安感や恐怖感に襲われていました。それでもなお、水藻センター長さんご夫妻は私の話に耳を傾けてくださいました。お二人から親切にして頂きながら、私は自分のことを考えるだけで精一杯でした。

一回目のインターンシップが終わり、日本に一時帰国することで、心の安定を取り戻すことができました。し

かし、今度は妹が学校に行けない状態にあることを知りました。ある晩、部屋で泣いている妹の姿を見た時、「これは僕の責任だ。僕が自分のことばかり考えていたから、妹も気力を無くしてしまったんだ」と直感し、それまで感じたことのない強い罪悪感を覚えました。私はその時、「妹のために強く生きないといけない」と思いました。そして、二回目のインターンシップは妹のために頑張ろうと心に決めました。

「妹のために」と思いながらインターンシップをさせて頂くうちに、不思議なことに、次第に自分の病気に悩まされることが少なくなっていきました。そして、「もしかしたら他の人のために生きれば、自分の苦しみは無くなるのではないか」と思うようになりました。そんな時、ちょうどイタリアに出張されていた庭野統弘元学林学長先生とお会いする機会を頂きました。お会いする三時間前、水藻センター長さんから突然電話がありました。「陵介、今日お前は恐らく『宮平支局長さんの後任にならないか?』と学長先生から聞かれるぞ。後任ってことは日本を離れて死ぬまでイタリアで生活することを覚悟する必要があるからな。ちゃんと決めておくんだよ。頑張れ」という内容でした。「あと三時間で人生を決めなくてはいけないのか…」と思いました。しかし、お会いする直前にパッと「自分がしたいことよりも、まず人のために何かをすることが大切なではないのか。それが自分にとって幸せな人生の送り方なのではないか」と思いました。そして、学長先生に「人のためになるなら、ぜひさせて頂きます」とお伝えしました。学長先生は私の思いを受け止めてくださいり、その後学林への入林を勧めてくださいました。私はこうした経緯で学林に入らせて頂き、真剣に佼成会の信仰に向き合い始めました。

私は病気というご縁を通して、人のために生きる大切さを学ばせて頂き、信仰の素晴らしさ、佼成会のサンガ

Spiritual Journey

の素晴らしさに気づかせて頂きました。病気による苦しさも、今では仏さまからのお計らいだったように思えます。仏さまは「陵介、いい加減に自分のことではなく、周りの人のことを考える人間になれよ」と私に伝えようとされていたのではないかと思います。病気を経験したからこそ、「菩薩の生き方」を知ることが出来、信仰の大切さに気付くことが出来たのだと思います。

二つ目のご縁は「挫折」です。先ほどの経緯から、私は学林に入林をしました。宮平支局長さんの後任になるには、カトリック神学を学ぶ必要がありました。そのため、法華経を学林で勉強した後、イタリアに職員として留学させて頂くことを強く望んでいました。

学林では素晴らしい学びを沢山頂きました。法華経や開祖さまのみ教えを、学だけでなく、行を通して学びました。素晴らしい仲間との出会いにも恵まれました。しかし、私の心の奥には「留学するために学林にいる」という思いが強くありました。当時の私は留学という目的のために全てを捧げていました。今振り返ると、人のためにさせて頂くはずの留学の夢は、いつしか自己実現の手段にすり替わっていました。

しかし、卒林後の進路が発表された時、私は留学ではなく「国際伝道グループ」への配属が決まっていました。正直、学林での三年間はなんだったのだろうと思いました。決定が受け入れられず、学林を辞めて、別のルートからイタリアに行こうとまで考えました。

進路が発表された翌日の11月15日、開祖さまの生誕会の日、私は式典のお役で本部に行っておりました。朝、庭野学長先生からメールが入っていました。「力になれないで申し訳ないです。ただ、このご縁を生かすか殺すかは自分次第ということも事実だと思います。これからも共に修行精進していきましょう。」と書かれていました。

そして、生誕会の式典が始まりました。お役で忙しい中ではありましたが、当時の川端理事長さんのご講話を拝聴することができました。ご講話の中で理事長さんは、開祖さまから最後に頂いたご指導についてお話し下さいました。

「そのお役が務まるか務まらないか、出来るか出来ないかというのは、あんまり関係ないんだ。これは仏さまから頂いたお役だと思い定めて、なんとかお役を果たさせて頂きたいという気持ちで、真心で、一生懸命、お役に励ませて頂くことだ。その気持ちさえピシッと決まれば良いんだ。そういう心が決まった人の出現を仏さまは待ち望んでおられるのですよ。今度はこのお役をやってみなさいと、必ず自分にふさわしいお役を次に用意してくださるから、才覚無益だ。目の前のお役を真心で果たさせて頂くんだよ。」

それを聞いた時、どんな感情だったのか分かりませんが、開祖さまが私に直接話しかけてくださっているような感覚がして、涙が止まらなくなりました。式典終了後、講演を終えられた理事長さんと秘書の方にたまたまお会いすることが出来ました。秘書の方が「彼は萩原君といって、今度国際伝道グループに配属になります」と理事長さんにご紹介くださると、「そうか、頑張ってね！」と言ってくださいました。

国際伝道グループに配属され、今年で三年目になります。コロナ禍という状況でありながら、今日も数多くのサンガの皆さまとの出遇いを頂き、誇りを持ってお役をさせて頂いております。留学の夢が叶わなかった時、最初は失意で先が見えない状態でしたが、今では国際伝道グループで働くことに沢山の喜びを感じています。その喜びが生まれるのは、拠点の活動に参加して世界のサンガと触れ合えた時や、人さまのお役に立てた時です。「留学だけが自分が望む生き方を叶える道」

Spiritual Journey

と考えていた私でしたが、今では、新たなご縁の中で自分らしい良い生き方が出来ているのではないかと感じています。

先日、ある親戚と会った時に、校成会の話をさせて頂きました。その人は校成会にあまり好意的でないため、私の職場について色々な指摘を頂きました。組織である限り、確かに様々な問題はありますが、それでも私が校成会でお役をさせて頂いているのは、やはり「校成会が好き、お役が好き、サンガが好きだから」なのだと思います。留学が実現せず、校成会をやめようと考えたこともあります。しかし、そうした挫折の経験も、自分にとって本当に大切なこと、仏さまの目線から見て人生で最も大切なことに気づくために必要だったのだと思えるようになりました。

最後の三つ目は、先輩奉職員である父との縁です。冒頭でもお話しさせて頂きましたが、私の父は校成会のスタッフです。教會長になるまで父は、国際分野でのお役を頂いておりました。私のちょうど三十年前に学林を卒林し、それから二十年近く国際布教のお役を頂いておりました。その関係もあり、私はドイツのフランクフルトで生まれ、二歳から六歳までイギリスのオックスフォードで育ちました。当時も現在もRKUKのフィリップス洋子さんや多くの方々にお世話になっております。

私が国際分野でのお役に興味を持ったのは、そんな父の姿を見てきたからだと思います。国際伝道グループでお役を頂いている時の父を見ていた私は、世界を駆け回る父を単純にかっこいいと思い、尊敬しておりました。特に学林に入って、父と同じ校成会のスタッフになってから、そうした思いをより強く抱くようになりました。父の偉大さを実感することが多くなりました。学林でお役をしている時も、「父ならどう考えるだろうか?」と思うなど、父の存在を強く意識しておりました。一方で、同じスタッフ

になったからこそ、父には到底及ばないと劣等感に近い思いを抱くことも多くなりました。そして、父には及ばない、ましてや超えられはしないと勝手に思っておりました。

学林では卒林前に、会長先生のご自宅でお食事会が催される大変有り難い伝統があります。卒林の数日前、同期やスタッフさん方と、会長先生のご自宅にお邪魔させて頂きました。会長先生と奥さまは大変なごちそうで私たち学林生をもてなしてくださいました。そんな中、ふと私は壁に開祖さまのお写真が飾られているのを目りました。私は「会長先生はご自身のお父さまである開祖さまをどう思っていたのだろうか?」と思いました。

楽しい食事会の終盤、もうお開きの挨拶が始まろうとしている時に、どうしても会長先生に質問させて頂きたく手を挙げました。「私は父を尊敬する一方で劣等感を抱いております。会長先生は開祖さまをどう思っていたのですか?」と質問させて頂くと、会長先生は即座に「超えないと発展しない」とお答えくださいました。そして「0.1%でも超えていく。自分の役割の中で超えていく。超えないと人類に貢献が出来ない」と続けて仰られたのです。父を超えることなどできないと思っていた私でしたが、会長先生から意外なお答えを頂戴しました。「超える」とはどういうことなのか、正直なところ、まだよく分かっていません。しかし食事会の後に、同席されていた学林の次長さんから、「会長先生は開祖さまを超えたんだよ」と言われました。

あの時、私は会長先生から、人生をかけた課題と目標を明確に教えて頂いたのではないかと思います。会長先生と同様に、尊敬する父親を持つ私ですが、父を「超える」ためにこれからもその背中を追っていきなさいとご指導頂いたように思います。校成会に奉職する前と後では父に対する思いや関係性は変わりましたが、先

Spiritual Journey

輩の奉職員である父との縁は、日々お役をさせて頂く上での原動力になっております。

以上が私の人生における三つの大きなご縁との出遇いについてのお話です。一見、悪縁と思われるようなご縁を含め、本当に様々なご縁を仏さまから頂きました。法華経の如来寿量品の中に、次のような仏さまのお言葉があります。

「諸の善男子、如來の演ぶる所の經典は、皆衆生を度脱せんが爲なり。或は己身を説き、或は他身を説き、或は己身を示し、或は他身を示し、或は己事を示し、或は他事を示す。」

「己身」または「己事」は私たちにとって都合の良い現象であり、「他身」または「他事」は逆に都合の悪い現象という意味です。仏さまは私たちを様々なご縁に出会わせることで、仏の悟りに近づけようとしているという教えです。ただ今お話ししたように、私は三つのご縁との出遇いを通して、仏さまの見方に気づかせて頂くことができました。しかし、仏さまが出遇させてくださったご縁の意義を理解するのは、私一人では難しいことでした。

先ほどの三つのご縁についてのお話で共通していることがあります。それは「まわりのサンガのお陰様でご縁の意義に気づかせて頂いた」ことです。私自身、今日このように自らの体験を振り返る中で、やはり心に浮かんで来るのは、私を救ってくださった水藻センター長さんご夫妻、妹、庭野学長先生、そして両親の顔であり、会長先生、開祖さまのお言葉です。その出会いのお陰様で悪い縁と思えたことが、実は自分にとって必要なご縁であることに気づかせて頂きました。サンガの存在があってこそ、私は仏さまのお心に気づき、ご縁をより良いものにしていくことが出来たのだと思います。

新しい年が始まりました。これまでお世話をになったサンガの皆さまへの感謝を忘れず、これからもサンガの皆さ

まのご教導を仰ぎ、ご縁を大切にしながら、信仰者としてご法の道を歩ませて頂きたいと思います。そして、私自身がサンガの良き縁となれるよう、精進していきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



お父様と

まんが 立正佼成会入門

開祖さまの生涯と立正佼成会の歴史

会員の増加

終戦直後の日本社会はとても貧しく、人びとの心は荒れはて、病人もたくさんいました。

開祖さまと会員たちは「法華経を信じて行すれば幸せになれる」と教えを説き、多くの人を救っていきました。疑いながら入会した人たちも教えを実践することでものの見方や自分の心が変わり、心から法華経を信じていきました。

救われた会員たちは喜びと感謝の心で教えを伝え歩いて、仲間の輪を大きくしていました。こうして立正佼成会の会員はどんどん増えていったのです。



豆知識

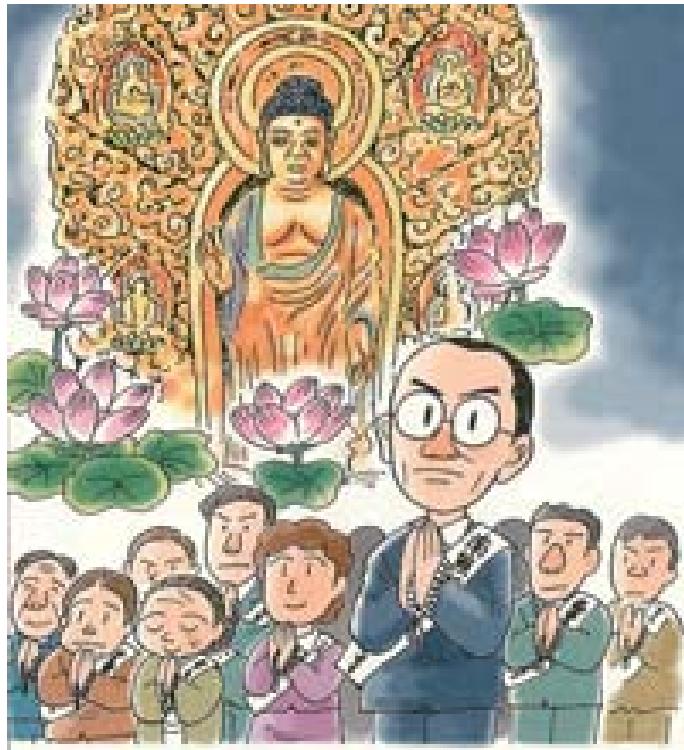
終戦の年、1945年に1,300世帯だった会員は、1年後には10,000世帯になり、その翌年には18,000世帯となった。



※私的使用を除き、無断で複製・転載をしないでください。

『まんが立正佼成会入門』は、佼成ショップにて好評発売中です。
<https://www.koseishop.com/>

ご本尊の勧請



脇祖さまが亡くなった翌年の1958年、開祖さまは「久遠実成大恩教主釈迦牟尼世尊」がご本尊であることをあきらかにします。これを「真実顯現」といいます。

この年、開祖さまは北は北海道から南は九州まで、はじめての全国布教を行ないました。全国48カ所で会員と直接に接し、法華経の教えを説いてまわりました。

全国布教では開祖さまのあたたかな人柄にふれ、法話に感動して、その場で入会する人がつぎつぎに現われました。

※私的使用を除き、無断で複製・転載をしないでください。



豆知識

創立から「真実顯現」までの20年間を「方便時代」と呼ぶ。よく「嘘も方便」などといわれるが、仏教で方便とは、人を正しい道に導くためにつかう手段のことをいう。



Director's Column

自他ともに功德を得る布施

国際伝道部長

赤川惠一

今月も引き続き六波羅蜜の布施に関するご法話をいただきました。かみしめて読み進めながら、布施の理解を深める良い機会とさせていただきましょう。

布施行を通して慈悲に徹せられた釈尊の布教伝道に倣い、私たちが日常生活で実践できる布施を深く再認識して過ごしていきたいものです。法施・財施・身施に加えて、無財の七施など、意識すればいつでもあらゆる生活の場面で、私たちには布施の機会が与えられています。

ご法話では「蓄財」に関する肯定的などらえ方も紹介されていて、「蓄えた財によって、人びとに福利をわかつち与えること」であるならば「財の集積は、人生の望ましい目的」にもなりうると積極的な肯定をされました。

本会の「一食を捧げる運動」では、寄せられた基金の一部を、他団体の慈善活動への協力に振り向けており、布施においても本会の伝統的な「まず人さま」精神が發揮された善き事例として挙げられます。世界でこの「佼成会マインド」が広まりますように心から願っています。

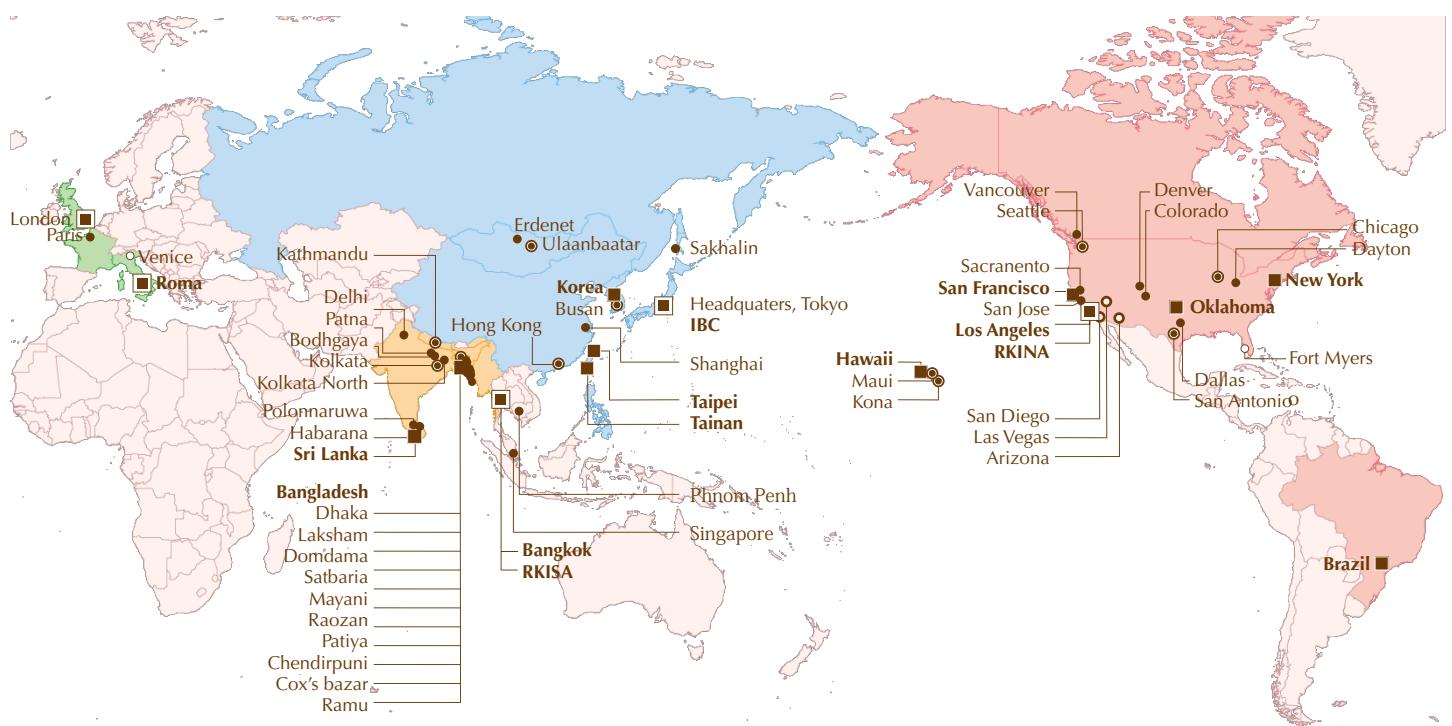


Living the Lotus では、皆さんのご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA
TEL: 1-808-455-3212 FAX: 1-808-455-4633
Email: sangha@rkhawaii.org URL: <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1809 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA
TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA
TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA
TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567
Email: rk-la@sbcglobal.net URL: <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

(Address) 1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA
(Mail) POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA
TEL: 1-650-359-6951 Email: lotusbuddhist@gmail.com
URL: <https://sf-buddhism.org/>

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco

Rissho Kosei-kai of Sacramento
Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA
TEL: 1-212-867-5677 Email: rkny39@gmail.com URL: <http://rk-ny.org>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA
TEL: 1-773-842-5654
Email: murakami4838@aol.com URL: <http://rkchi.org>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

URL: <http://www.rkftmyersbuddhism.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

(Address) 2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA
(Mail) POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA
TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303
Email: rkokdc@gmail.com URL: <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809, Denver, CO 80204, USA
TEL: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA
URL: <http://www.rkina-dayton.com>

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA
TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-269-4567
Email: info@rkina.org
URL: <https://www.buddhistcenter-rkina.org>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA
(Mail) POBox 692148, San Antonio, TX 78249, USA
TEL: 1-210-558-4430 FAX: 1-210-696-7745
Email: dharmasanantonio@gmail.com
URL: <http://rksabuddhistcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA
TEL: 1-253-945-0024 Email: rkseattlewashington@gmail.com
URL: <http://buddhistlearningcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Please contact RKINA

Risho Kossei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefano 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil
TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377
Email: risho@rkk.org.br URL: <http://www.rkk.org.br>

在家佛教韓國立正佼成會 Korean Rissho Kosei-kai
〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓國立正佼成會釜山支部 Korean Rissho Kosei-kai of Busan
〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會 Rissho Kosei-kai of Taipei
台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongjheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會 Rissho Kosei-kai of Tainan
台灣台南市東區崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: koscikaitainan@gmail.com

Rissho Kosei-kai South Asia Division
Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Kathmandu
Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai Society of Kolkata
89 Srirampur Road (VIP), Garia, Kolkata 700084, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North
AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center
Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rampur, Gaya-823001,
Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Patna Dharma Center
Please contact Rissho Kosei-kai Society of Kolkata

Rissho Kosei-kai of Central Delhi
77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Singapore
Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh
W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,
Phnom Penh, Cambodia

RKISA Rissho Kosei-kai International of South Asia
Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Bangkok
Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei Dhamma Foundation
No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa
Please contact Rissho Kosei Dhamma Foundation

Rissho Kosei-kai Bangladesh
85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL: 880-2-41360470

Rissho Kosei-kai Mayani
Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Damdama
Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Satbaria
Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Chendhirpuni
Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai Raozan
Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Laksham
Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Dhaka North
408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar
Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Please contact Rissho Kosei-kai Bangladesh

Rissho Kosei-kai Patiya

Rissho Kosei-kai Ramu

Rissho Kosei-kai Aburkhil

Buddiyskiy khram "Lotos"

4 Gruziinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia
TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Erdenet

Please contact Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Please contact Rissho Kosei-kai di Rome

Rissho Kosei-kai of Paris

Rissho Kosei-kai of Venezia

Rissho Kosei-kai of the UK

29 Ashbourne Road, London W5 3ED, UK
TEL: 44-20-8933-3247 Email: info@rkuk.org URL: https://www.rkuk.org
Facebook: https://www.facebook.com/rkuk.official
Twitter: https://twitter.com/rkuk_official
Instagram: https://www.instagram.com/rkuk_official

Rissho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)
166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: http://www.ibc-rk.org